

3. 2017 年度活動概要

本研究会は「相互作用における待遇・対人関係にかかわる言語使用の日英比較と、その成果に基づいた英語教育カリキュラムの開発」をテーマに研究を継続している。日・英語のポライトネスを研究の出発点とし、両言語のコミュニケーション・スタイルの相違、研究成果の英語会話教育への応用へと発展させている。

2017 年度は、下記 3 つの研究に取り組んだ（いずれも科学研究費基盤研究（C））。

- 1) 聞き手の役割に主眼を置いた英語会話能力育成モデルの構築（平成 27 年度～29 年度）研究代表者 岩田祐子（国際基督教大学）課題番号 15K02695、
- 2) 「積極的な聞き手から話し手になるための英語会話参加能力ーその教育効果の実証研究」（平成 29 年度～31 年度）研究代表者 村田泰美(名城大学)課題番号 17K02905
- 3) 南アジア・東南アジアにおける ELF 談話スタイルの実態調査・英語発信力養成に向けて（平成 29 年度～31 年度）研究代表者 重光由加（東京工芸大学）課題番号 17K02903

(1)では、テキストサンプルを作り、各大学で実験授業を行い、その成果を JACET 56th 国際大会にてシンポジウム『聞き手の役割に主眼を置いた英会話能力の育成ー教材と指導法』を行った。また、「英語会話におけるやりとり（インタラクション）をどう教えるかー会話データ分析に基づく実践的指導法と指導の試み」のワークショップを東京（11 月 4 日）、名古屋（12 月 2 日）に開催した。いずれも、参加者からさまざまなコメントをいただけたことは有難い。(2)では、(1)で検討した指導法を用いて指導した日本人学生を対象に、東アジアの英語学習者と実験会話をするデータを採取した。(3)では、我々が今までやってきた、英語母語話者との対照研究の知見が、英語が ELF として使われている場面と比較するため、東南アジア、南アジアの接触場面での実験会話を採取した。2018 年度以降は、(1)に関しては成果のまとめ、(2),(3)に関しては、採取したデータを分析に集中し、指導法に貢献できるよう順次発表することを目標とする。